地域定着を図るための卒前、卒後の教育内容及び支援組織

＜卒前＞

＜医学教育推進センター：教員　4人＞

〇所管業務
- 講座横断的教育の企画・立案・実施（体験学習、臨床実習、総合診療学演習など）
- 共用試験の準備および実施
- 学外施設（ネットワーク病院やサテライトセンターなど）および学外教員（＊）との連絡調整
- 学力向上支援
- 教員および学生による教育評価の集計および解析
- 教育カリキュラムおよびシラバスの全体的評価と改善
- 教員教育（FD）の実施（FD委員会と共同）

〇体制
- 当初は、専任教員4名及び事務スタッフ3～4名配置し、年次進行とともに教員を充実させる予定。

	地域医療教育（地域滞在型）／災害・放射線医療教育					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
全学生	（前期） 大学基礎論（東北6県の地域の生活・文化） 早期医療体験学習	（前期） ＊地域医療学 僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	（前期） 救急医療学 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	（前期） 高齢者医学 基礎−臨床統合演習 ［共用試験］	（前期） 【参加型臨床実習】 診療科臨床実習 （附属病院・関連教育病院） 地域総合診療実習 （地域医療ネットワーク病院） 地域包括医療実習 （地域医療教育サテライトセンター） ＊総合診療学演習	（前期）
	（後期） 医療コミュニケーション学 チーム医療体験学習 放射線基礎医学 放射線基礎医学体験学習	（後期） 介護・在宅医療学 介護・在宅医療体験学習	（後期） 医療管理学 災害医療学 被ばく医療演習 救急・災害医療体験学習	（後期）	（後期）	（後期） 統括講義

地域滞在型学習；各県に学生を配置し、ネットワーク病院・サテライトセンターおよび関連施設にて滞在型の学習.
学生の配置；修学資金枠学生（資金循環型、資金費消型）；修学資金提供の当該県. 一般枠学生；東北6県出身者＝出身県、東北外出身者＝本学が配置した県.
＊外部非常勤講師：総合診療医

＜卒後＞

＜地域医療連携センター：教員　3人＞

〇所管業務
- 各県の当局および医学部との意見交換
- 修学資金貸与医師の専門医や学位の取得等のキャリア形成支援
- 一般枠医師の専門医や学位の取得等のキャリア形成支援
- 地域医療機関の医師の支援
- ネットワーク病院およびサテライトセンターの支援
- 本学卒業生と本学および地域医療関係者との連携
- 高校生への地域医療の啓蒙

〇体制
- 当初は、専任教員3名及び事務スタッフ3～4名配置し、年次進行とともに教員を充実させる予定。

入学区分		卒後研修（初期研修、後期研修、専門医取得、学位取得など）
修学資金枠	資金循環型	・ 宮城県（30名）：病院の規模や機能の異なる指定病院群（宮城県医師育成機構との協議）間をローテーションする。指定病院以外の高度先端病院や本学附属病院に勤務する場合は、宮城県と協議のうえ、修学資金の償還を猶予する制度の設計を行う。また、この間、併せて本学が当該病院に非常勤医師等を派遣するシステムを構築する。 ・ 宮城県以外の東北5県（計5名）：各県の当局および医学部と協議して、同様のローテーションシステムを構築する。 図1．医師循環システム（例）
	資金費消型	・ 宮城県以外の東北5県（各県平均4人、計20名）：当該県の修学資金制度の義務年限規定に従いながら、ローテーションシステムのなかでキャリア形成を目指す。
一般枠		・本学が各県の当局および医学部と連携して、各県での初期研修およびキャリア形成を支援する。 ・宮城県の場合；本学附属病院での初期研修を勧める。研修終了後は、本学附属病院を含む医師循環システムを通じてキャリア形成を目指す。具体的には、本学附属病院の他に、専門医取得が可能な「高度病院」群、中規模の「基幹病院」群、郡部の病院、診療所等を含む「地域病院」群に分け、この3群の病院を適切なバランスで循環させるシステムを構築する（図2）。 図2．医師循環システム（例）

図1．医師循環システム（例）

キャリア形成														
初期研修		義務年限						研修		義務年限				
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
基幹病院		地域病院大		地域病院中		地域病院小		本学含む基幹病院		地域病院大		地域病院中		

図2．医師循環システム（例）

初期研修		後期研修・キャリア形成											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
基幹病院A		各県の大学病院			地域病院A		基幹病院B		地域病院B		郡部の病院	各県の大学病院	

〇基幹病院：キャリア形成可能病院　〇地域病院：中規模の地域病院
〇郡部の病院:小規模病院、診療所等

参考資料4